

# 座標参照系ウィンドウ

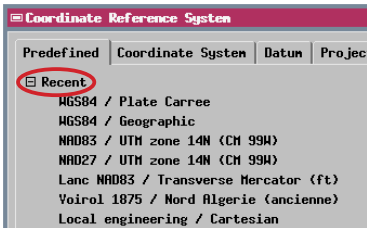
〈座標参照系ウィンドウ (Coordinate Reference System)〉は TNT 製品全体にわたり地理空間データにジオリファレンスパラメータを設定するために使用されます。例えば、ある空間オブジェクトをジオリファレンスしたり、特定の形式の外部ファイルをインポートしたり、地理空間オブジェクトを再投影する

ときに使用される座標参照系を指定する必要がある場合にこのウィンドウが表示されます。ユーザはこの〈座標参照系ウィンドウ〉を使って TNT 製品で用意されている数百もの座標参照系や座標系の中から選択したり、独自の座標参照系をいくつでも定義したり保存したりできます。

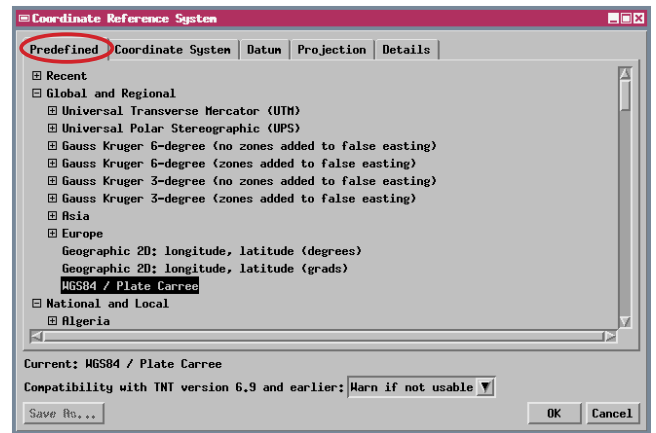
## 定義済パネル

〈座標参照系〉ウィンドウのコントロールはタブパネルにまとめられています。〈座標参照系〉ウィンドウを開くと [定義済 (Predefined)] タブパネルが前面に表示されます。このパネルには定義済の座標参照系 (座標系と測地系) が階層的に一覧表示されており、1 ステップで選択できます。同様に、ユニバーサル横メルカトル座標系などのいくつかの世界的に使用される座標系も使用可能な任意の測地系と組み合わせて、どのような地域にも適用することができます。[定義済] パネルの使用方法に関してはテクニカルガイド「定義済座標参照系 (Predefined Coordinate Reference Systems)」や「定義済座標系に必要な測地系の選択 (Predefined Coordinate Reference Systems Requiring Datum Selection)」で詳細に解説しています。

TNT の処理においてユーザが座標参照系を何回か指定する

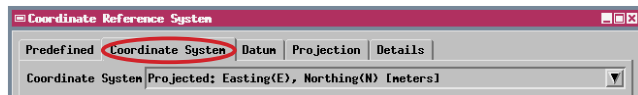


と、[定義済] パネルの最上部に [最近使った座標参照系 (Recent)] のグループが表示されます。このグループには TNT の処理において最近使用された 10 個の座標参

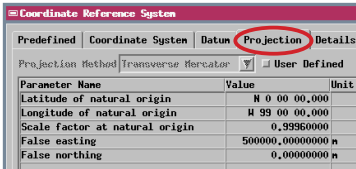


照系がリストされていて 1 ステップで選択できるので便利です。[最近使った座標参照系] グループの先頭にある座標参照系が "カレント (Current)" としてウィンドウを開いた時表示されます。この現在の座標参照系はユーザが〈座標参照系〉ウィンドウを開いた時にその処理で使用される座標参照系です (その処理で選択したジオリファレンス済みデータに由来します)。そうでなければデフォルトの "WGS84 / Geographic" が入ります。

## 座標系、測地系、投影法パネル



日常的使用において、[定義済] パネルで定義済の座標参照系や座標系を選択した場合、ユーザは座標系や投影法タブパネルを使用する必要はありません。こうした場合、これらのパネルは定義済の座標参照系のパラメータを表示しているにすぎません。しかし、定義済の中にあなたが使う空間参照パラメータに合うものが無い場合は、これらのパネルを使って、適切な座標系や投影法を選択することになります。詳細はテクニカルガイド「独自の座標参照系の設定 (Private Coordinate Reference System Setup)」をご参照下さい。



測地系パネルでの測地

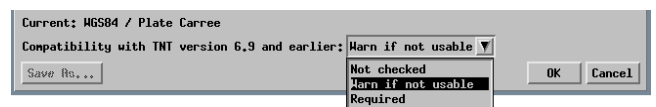
系パネルでの測地

## 過去のバージョンとの互換性

〈座標参照系〉ウィンドウの一番下にあるメニューでは指定した座標参照系とバージョン 6.9 の TNT 製品との互換性のチェックができます。

次のような選択肢があります。

(1) 互換性チェックをしない。



- (2) 指定した座標参照系が互換性の無い場合警告を出す、そのまま使用する (デフォルト)。
- (3) 下位互換性のある座標参照系の選択・作成を要求する。